

UV PRINTER UJF-3042**HG** UJF-6042









目次

ご注意 vi
ご注意vi
おねがいvi
電波障害自主規制vi
テレビ / ラジオの受信障害について
はじめにvii
取扱説明書について vii
安全にお使いいただくためにviii
マーク表示についてviii
警告ラベルについてxiv
本書の読み方xvii

第1章 ご使用の前に

本機を設置する	1-2
設置場所について	1-2
本機の移動	1-3
各部の名称とはたらきについて	1-4
装置前面	1-4
装置背面	1-4
操作パネル	1-5
キャリッジ	1-6
非常停止スイッチ	1-6
吸着テーブルについて	1-7
タップ位置について	1-8
吸着テーブルに関するご注意	1-10
ケーブルを接続する	1-11
USB2.0 インターフェイスケーブルを	
接続する	1-11
電源ケーブル接続について	1-11
インクカートリッジについて	1-12
使用可能なインクの種類	1-12
メディアについて	1-14
使用可能メディアサイズ	1-14
メディア取り扱い上の注意	1-14
メニューモードについて	1-15

第2章 基本的な使い方

作業の流れ	2-2
電源を入れる	2-3
メディアをセットする	2-4
別の方法でメディアをセットする	2-9

テスト作図をする	2-10
ヘッドクリーニングを実行する	2-12
データを作図する	2-13
作図を開始する	2-13
作図を中止する	2-14
作図データ受信中または受信済みの確認.	2-15
[! ワーク タカイ] を表示したら	2-16
作図中にカバーを開けてしまった場合	2-16
電源を切る	2-17

第3章 便利な使い方

原点を変更する	3-2
ジョグキーを使用する	3-2
ファンクションメニューを使用する	3-3
ヘッドの高さを設定する	3-4
テーブルスペーサの設定をする	3-4
メディアの厚みを設定する	3-5
ヘッドギャップを設定する	3-6
テーブルの高さを設定する	3-7
ギャップチェック	3-8
パス間の縞を軽減する設定をする	3-9
MAPS 機能とは	3-9
MAPS2 機能を設定する	3-9
その他の便利な機能	3-12
データクリア	3-12
本機の情報を表示する	3-12
中断した作図を再開する	3-13
ノズル抜けが直らないとき、かわりのノ	ズルで作
図する	3-14
着弾ズレを確認する	3-16
各種設定	3-17
作図方式を設定する	3-17
LED UV 装置のモードを設定する	3-18
パス数が少ない時の UV 積算照射量を	
増やす	3-19
優先順位の設定をする	3-20
ファンモードを設定する	3-21
ワークチェンジを設定する	3-22
インク残量を設定する	3-23
画面の言語表示を切り替える	3-24
設定リストを出力する	3-25
本機のマシン情報を表示する	3-26

その他の便利な設定	3-28
設定した内容を初期状態に戻す	3-29
時刻を設定する	3-30
ミリ/インチの設定をする	3-31
空きカートリッジの重量を設定する	3-32
キーブザーの設定をする	3-33
冷却ポンプの設定をする (UJF-3042HG	
のみ)	3-34
作図前フラッシングレベルを設定する	3-35
バキューム機能を設定する	3-36

第4章 お手入れ

日常のお手入れ	4-2
長期間使用しない場合は	4-2
お手入れ上のご注意	4-2
外装のお手入れ	4-3
テーブルの清掃	4-3
インクカートリッジについて	4-4
新しいインクカートリッジに交換する	4-4
インクセットを設定する	4-6
カートリッジ異常が発生したら	4-9
白インクカートリッジを振る	4-10
600ml インクカートリッジについて	.4-12
ケースの重量を登録する	4-12
カートリッジの重量を登録する	4-13
カートリッジの重量を登録する(レベルロ-	-/レ
ベルエンド後)	4-14
作図中のインク滴の垂れを防ぐ	.4-16
廃インクが溜まったら	.4-18
廃インクタンクのインクを処分する	4-18
ワイパボトルのインクを処分する	4-20
フィルタを交換する	.4-22
ノズルを洗浄する	.4-24
ノズル洗浄 (PR-200 メンテナンス洗浄液	
使用時)	.4-26
インク排出路を洗浄する	.4-29
長期間使用しない場合(ホカンセンジョウ)	4-30
へ い ド を 法 治 す ろ	4-32
ペリー 2005 9 0	1-34
- ノノル県でロフ	1 26
ノ ヘル回り,月柿娯反でひたりる	.4-30
日1 ノク (小ワ1 F) のメフテノフス	.4-37

ワイパのクリーニング	4-40
不凍液混合水を交換する	4-42
不凍液混合水を交換する	4-43

第5章 困ったときは

故障かなと思ったら	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
作図結果に問題があるときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-3
インク漏れが発生したら	5-3
メッセージを表示するトラブル	5-4
ワーニングメッセージ	5-4
エラーメッセージ	5-6

第6章 付録

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
お問い合わせシート	6-4
機能フローチャート	6-5



ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不 能から生ずるいかなる損害(逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含 み、これらに限定しない)に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

ー例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損 失等の責任負担もしないものとします。

本機を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると電波妨害を引き起 こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがありま す。

VCCI-A

テレビ/ラジオの受信障害について

本機は、使用時に高周波が発生します。このため、本機が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害を発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ/ テレビに対しては保証しておりません。

本機がラジオ/テレビ受信の障害原因と思われましたら、本機の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせてお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。



この度は、UV インクジェットプリンタ UJF-3042HG/6042 をお買いあげいただき、誠にあり がとうございます。 「UV インクジェットプリンタ UJF-3042HG/6042」は、紫外線硬化インク (UV インク) を使用 しております。 本書をよくお読みになり、お客様のニーズに合わせた作図にお役立てください。

取扱説明書について

- 本書は、「UV インクジェットプリンタ UJF-3042HG/6042」(以後本機と称します)の操作や メンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いて お使いください。
- 本書は、本機をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売 店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失/破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所 にてお買い求めください。
- 取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。



マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味を理解し、本機を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

警告	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または 重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、 正しくお使いください。		
注意	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う 可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示してい ます。		
重要!	「重要」マークは、本機をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内 容が書かれています。操作の参考にしてください。		
الم	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考 にしてください。		
(Eff	関連した内容の参照ページを示しています。		
Â,	▲マークは、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項(左図の場合は感電注意)が描かれています。		
	◇記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。		
	記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。		



絶対にしないでください

▲ 警告			
分解・改造はしない	インクカートリッジの取り扱い		
・本機やインクカートリッジの分解・改造は、絶対に行わないでください。感 電や故障の原因になります。	・一部成分において(光重合開始剤)、水 生生物に対する毒性があります。自然 水系、生活排水への漏洩流出を防いで		
湿気の多い場所では使用しない	ください。 ・インクカートリッジや座インクタンク		
・湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、 故障の原因になります。	は、子供の手の届かない場所に保管し てください。 ・インクが皮膚や衣服に付着した場合		
異常事態の発生	は、直ちに石けんや水で洗い流してく		
 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。 お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。 	にさい。 カーインクが自に入うた場合 は、直ちに水で洗い流し、医師の治療 を受けてください。 ・インク漏れが発生した場合は、主電源 スイッチをオフにして電源プラグを抜 いてから、弊社サービスまたは販売店 にサービスコールしてください。		

▲ 警告
保護具着用
•吸引ノズルのクリーニングにおいて、インク、メンテナンス用洗浄液が飛び散る可能性が ある場合は、必ず保護メガネおよび手袋を着用して、クリーニングを行ってください。イ ンク、メンテナンス用洗浄液が目に入る危険性があります。またインク、メンテナンス用 洗浄液が手に付着すると手が荒れる原因になります。
電源、電圧について
 ・表示された電源仕様で使用してください。また、電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理されたコンセントに差し込んでください。火災・感電の原因になります。
 ・点灯中の LED UV 装置は絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。必ず安全眼鏡を掛けてください。 ・紫外線(UV)を皮膚に直接あてないでください。皮膚の炎症を起こす原因になります。
 ・メンテナンス時には感電を防ぐために、必ず主電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてください。また装置によっては、コンデンサの電荷放電時間に1分間必要な場合があります。主電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いた後は、必ず3分後に作業するようにしてください。 ・LED UV 装置がまれに破損することがあります。定格寿命もしくは、それ以前のLED UV装置の交換をお勧めします。
 ・本機の主電源スイッチの投入作業も、本機の操作方法を熟知した人以外は行わないでください。 ・点灯中や消灯直後は熱いので、LED UV 装置には手を触れないでください。ヤケドの原因となります。
不凍液の取り扱い
 ・不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。冷却装置が故障する恐れがあります。 ・不凍液は、直接肌に触れないようにしてください。 万一、皮膚や衣服に触れてしまった場合は、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。 万一、不凍液が目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師の診断を受けてください。 ・不凍液をご使用の前に、必ず安全データシート(SDS)をお読みください。 ・誤って不凍液を飲み込んだ場合は、直ちに吐かせ、医師の診断を受けてください。 ・不用となった不凍液は以下の方法で処分してください。 ●おがくず、ウェス等に吸着させて、焼却炉で焼却する ●免許を持った産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託する
 静電気・衝撃火花による着火源が生じないように注意してください。 スマレンを取りれる場合は、火水に洗いガラントなどがたき用してください。
・ 小床液を取り扱う場合は、必9 味護メガネおよび手袋を有用してくたさい。

	▲ 警告
電源ケ	ーブルの取り扱い
0	 ・付属の電源ケーブルを使用してください。 ・電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、ひっぱったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。
LED U	Ⅴ装置の取り扱い
0	 引火する危険性の雰囲気(ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・粉塵など)で使用しないでください。また紙や布を LED UV 装置に近づけたり、覆ったりしないでください。火災の原因になります。

使用上のご注意

▲ 注 意				
ホコリから守る	定期交換部品があります			
 できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。悪環境下では、リフレッシュレベルを2または3に設定してください。 ・夜帰宅する際は、メディアをセットし 	 ・本機には、別に定める定期交換部品があります。保守契約をしていただくことをお勧めします。 			
たままにしないでください。メディアの上にホコリが付差してしまいます	装置を水平に保つ			
 ・メディアはホコリがつかないように保 管してください。メディアに付着した ホコリを拭き取ると、静電気により逆 効果になってしまいます。 	 ・本機を水平に保つようにしてください。 			
	メンテナンス用洗浄液について			
 ・ハコリか原因で、作図中に突然イングの雫がヘッドからメディアに落ちる場合があります。この場合は、ヘッドをクリーニングしてください。 (22) P.2-12) 	・メンテナンス用洗浄液は、冷暗所で保管してください。また子供の手の届かない場所に保管してください。			
警告ラベルについて	不凍液について			
・本機には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり、剥がれた場合は、販売店、または弊社営業所にて新しい警告ラベルをお買い求めください。	 ・不凍液は冷暗所で保存してください。 ・不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。 			

注 意				
インクカートリッジについて				
 カートリッジを寒い所から暖かい所に 移した場合は、使用する場所に3時間以 上放置してから利用してください。 カートリッジは、取付直前に開封して ください。開封した状態で長時間放置 しておくと、正常に作図できない場合 があります。 カートリッジは、冷暗所で保存してく ださい。 カートリッジを開封後は、早めに使い 切ってください。開封後、長時間経過し たものは、作図品質が低下します。 	 ・専用インク以外を使用すると、故障の 原因になります。専用インク以外を使 用して故障した場合の修理は、お客様 の負担になりますのでご了承ください。 ・カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。 ・インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。 カートリッジからインクが漏れる場合があります。 			
紫外線について	高温について			
・LED UV 装置周辺から多少の紫外線漏 れがあります。紫外線を皮膚や目に浴 びると、炎症や皮膚ガンを起こす可能 性があります。弱い紫外線で炎症を起 こさない場合でも、反復暴露により慢 性障害に発展する場合があります。紫 外線を皮膚や目に浴びないようにして ください。	・LED UV 装置は、非常に高温になりま す。メンテナンスを行う時は、LED UV 装置消灯後十分温度が下がってから 行ってください。			
 ・紫外線の目への障害として、急性障害;異物等、とう痛および涙が流れる等があります。慢性障害;白内障等があります。本機を使用する場合、手袋、長袖の服、顔面部は遮光面、目は付属の遮光メガネ等で保護してください。 	•万一、高温部に触る時は、断熱性のある手袋等で手の皮膚を保護してください。			
LED UV 装置の注意				
・LED UV 装置下面のガラスは、必ず付属の手袋をはめて取り扱い、素手で触れないでください。UV 硬化が著しく低下する原因になります。汚れがついた場合には、アルコールを湿らせた清潔なガーゼ等で拭いてください。(外側カバーは、アルコールで拭かないでください。塗装がはげます。)				
清掃について				
 ・長年の使用により装置導電部や絶縁部に 期的に清掃をしてください。 ・清掃は圧縮空気の吹き付けで行わない 電部に侵入して動作不良を起こします。 てください。 ・水のかかる場所での使用は、漏電の可能 用は避けてください。 	こゴミ、ホコリが溜まり漏電する場合があります。定 でください。ゴミ、ホコリが飛散するだけでなく、導 、必ず掃除機を使用して、ゴミ・ホコリを吸い取っ 能性が非常に高くなります。水のかかる場所での使			
 ・ 刀一、 漏電の発生すると、 作業員の感じ ・ 事故防止のため、 定期点検、 定期交換 	■ペツ火災に発展9つ場合かめりま9。 卵品の交換等は必ず行ってください。			

	注 意
発火、	発煙について
	• LED UV 装置等の高温部に可燃物が触れると、発火、発煙の可能性があります。 また、LED UV 装置の下に数秒間、可燃物を放置すると、発火、発煙の可能性があります。
0	 ・長年の使用で、安定器やその他使用部品についてゴミやホコリによる漏電、絶縁劣化が原因の発火、発煙の可能性があります。定期的な清掃、絶縁抵抗測定による劣化部品の交換をしてください。 ・長年の使用で、導電部のネジ等が緩むことが原因で、発火、発煙の可能性があります。定期的な増し締めを行ってください。 ・本機は防爆タイプではありません。危険物雰囲気での使用は爆発等の危険があります。危険物雰囲気での使用を禁止します。 ・異臭・発煙・スパーク跡など装置に異常が見られた場合は直ちに電源をオフにして弊社まで連絡してください。
レーザ	ーモジュール
注意	 この装置には、レーザーモジュールが搭載されています。 レーザーモジュールは、クラス1レーザー製品です。 ここに規定した以外の手順による制御及び調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつく ことがある。 レーザーダイオードの定格:655 to 660 mW、最大 10 mW モジュールの最大出力:0.12 mW IEC60825-1:2007

設置上のご注意

⚠ 注 意					
直射日光が当たる場所	水平でない場所	温度や湿度の変化が 激しい場所			
		 ・次の環境下でお使いください。 使用環境: 20 ~ 35 ℃ 35 ~ 65 % (Rh) 			
振動が発生する場所	エアコンなどの 風が直接当たる場所	火を使う場所			

警告ラベルについて

本機には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。 なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店また は弊社営業所にてお買い求めください。



注文番号	ラベル	注文番号	ラベル		
(1) M907328 (UJF-3042HG)	DO NOT PUT OVER 5KG ON THE TABLE	(6) M903330			
(1) M909738 (UJF-6042)	DO NOT PUT OVER 7KG ON THE TABLE	(7) M901549	A 3 E A control A contro A contre A control		
(2) M904325	Do not sit or lean on the table. Do not put any pressure on one side. These will deform the table and may cause damage and affects the printing		Ultraviolet is radiated. If you touch UV, you may bee your sight and get burnt.		
(3) M904813		(8) M905980	RADIATION		
(4) M903226	このテーブルに離掛けたり、変り曲かる等の編為書をかけないで下さい。 テーブルが変形し、故障の原因や、直時に影響が出る可能性があります。		WARNING 新外線の照射されています。 新外線を浴びると、失明や 火傷の恐れがあります。		
(5) M907327 (UJF-3042HG)	テーフ [°] ル上に5kg以上のものを 載せないで下さい。	(9) M902535	この装置は、クラスA指標結構装置です。この装置を 実証環境で使用すると電波装置を引き発品ですことがあります。 この場合には使用者が透切ら対像を引き発見するこう変まれる ことがあります。 VCCL-A This device complex with Part 15 of the FOC Rules. Operation is subject to the following two conditions : (1) This device must accept any interference, and (2) this device must accept any interference received, no		
(5) M909737 (UJF-6042)	テーフ゛ル上に 7 k g 以上のものを 載せないで下さい。	(0) 11002000	此力人语广告,在生活环境中,这广岛可能会出成天线电下4. Dieses Gerät entispricht der Klasse A für Verwendung in industriellen Bereichen, Bei Verwendung in Wohnbärtlichen kann es zu Empfängsätörungen für Farmärtigerätä sins. Komme kann es zu Empfängsätörungen für Farmärtigerätä sins. Komme kann es zu Empfängsätörungen für Verweitigerätä sins. Ceci es un appareit de classe A gui dot örte vallisis du dispositif dans ume zone residentielle ou dans des zones adjacentes à celle-ci opuraria cusser des parasities nuisibles aux recepteurs radio ou de television. 本		

吸着テーブル

吸着テーブルには、以下の警告ラベルを貼り付けています。



注文番号	ラベル	注文番号	ラベル
(1) M908914 (UJF-3042HG)	テーブル上に 2 kg以上のものを 載せないでください。	(2) M908915 (UJF-3042HG)	DO NOT PUT OVER 2KG ON THE TABLE
(1) M909739 (UJF-6042)	テーブル上に 4 kg以上のものを 載せないでください。	(2) M909740 (UJF-6042)	DO NOT PUT OVER 4KG ON THE TABLE
(3) M904325	Do not sit or lean on the table. Do not put any pressure on one side. These will deform the table and may cause damage and affects the printing	(4) M904813	登告 WARNING 手をはさまれる
(5) M903226	このテーブルに運動けたり、寄り掛かる等の保持書をかけないで下さい。 テーブルが変形し、故障の原因や、直到に影響が出る可能性があります。	(+) 10304013	文化あり 運転中に手を出すな Crush hazard keep hands clear while operating. IS



本取扱説明書では、操作手順と合わせて操作パネルの「表示パネル」に表示する文字や、使用 するキーを説明しています。 使用中に確認しながら、操作を進めてください。



xviii





この章では…

本機の各部の名称や設置方法など、ご使用の前に知っておいていただきたいことについて説明します。

本機を設置する	1-2
設置場所について	1-2
本機の移動	1-3
各部の名称とはたらきについて	1-4
装置前面	1-4
装置背面	1-4
操作パネル	1-5
キャリッジ	1-6
非常停止スイッチ	1-6
吸着テーブルについて	1-7
タップ位置について	1-8
吸着テーブルに関するご注意	1-10

ケーブルを接続する 1-11 USB2.0 インターフェイスケーブル を接続する 1-11 電源ケーブル接続について 1-11 インクカートリッジについて 1-12 使用可能なインクの種類 1-12 メディアについて 1-14 使用可能メディアサイズ 1-14 メディア取り扱い上の注意 1-14 メニューモードについて 1-15



設置場所について

本機を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。 本体の大きさと作図のために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	幅	奥行き	高さ	全体重量
UJF-3042HG	1200 mm	1090 mm	920mm	約 130 kg
UJF-6042	1510 mm	1090 mm	960mm	約 150 kg



本機の移動

本機をやむを得ず、段差のない同一フロア内で移動する場合は、下記のように行ってください。



- 移動するときは、大きな振動を与えないでください。
- 本機を傾けると、可動部(Yバー)が動く場合があります。前後のどちらかに、あらかじめYバーを寄せておくか、傾けないように注意して移動してください。
- なるべく水平を保つように移動してください。横倒し状態での運搬は、絶対に行わないでください。故障の原因になります。



本機を移動するときは、輸送用取っ手(2カ所)を取り付けてください。
 取っ手を本機に差し込み、ネジを締めて固定します。



- •本機を移動するときは、必ず4人以上で行ってください。
- カバーを押して移動すると、カバーが変形する可能性があります。必ず輸送取っ手を持って 移動してください。



各部の名称とはたらきについて

装置前面







操作パネル

操作パネルは、作図方法の設定、各種操作に使用します。



ジョグキーのはたらき

ジョグキーは、使用するタイミングにより機能が異なります。

作図原点、 範囲設定時	機能選択時	設定の選択時
キャリッジを左へ移動		
キャリッジを右へ移動		
Yバーを奥側へ移動	1 つ前の機能に戻る	1 つ前の機能を選択する
Yバーを手前に移動	次の機能に移る	次の値を選択する

キャリッジ

キャリッジには、作図用のプリントヘッド、LED UV 装置、プリントヘッドカバー内にライト ポインタを搭載しています。



非常停止スイッチ

安全上の理由で、本機を緊急停止したいときに押します。 安全スイッチは、装置前面に1箇所あります。



吸着テーブルについて

多様なメディアをセットして作図をするために、メディアの厚みに合わせて、テーブルの高さ を調整する必要があります。 本機では、テーブル高さを調整するための治具(吸着テーブル)を用意しています。

以下に各テーブルの仕様を記します。

	テープル	吸着テーブル + テーブルスペーサ 50	吸着テーブル + テーブルスペーサ 100
許容メディア重量 ^{*1}	UJF-3042HG: 5kg 以下	UJF-3042HG: 2kg 以下	
	UJF-6042: 7㎏以下	UJF-6042: 4Kg 以下	
バキューム機能	ナシ	アリ (設定が必要です。22P P.3-36)	
テーブル可動域	$0{\sim}50$ mm	$50 \sim 100 \text{mm}$ $100 \sim 150 \text{mm}$	
メディア厚み	100 \sim 150mm	50mm 以上 100mm 以下	50mm 以下

*1. 指定以上の重量物を載せると、画質低下の可能性があります。





タップ位置について

メディアをセットするためのテーブルや吸着テーブルにはそれぞれ以下の寸法で M4 タップ (UJF-3042HG: 12 箇所、UJF-6042: 16 箇所)が開いています。 タップ位置の図面データは、ミマキエンジニアリングダウンロードページ (https://japan.mimaki.com/download/)の「マニュアル」よりダウンロードできます。

• UJF-3042HG







- ・図のタップ位置(○)以外にもタップ穴(○)が開いていますが、それらの穴は 製造工程で必要な穴のため、使用しないでください。
 - ・ 指定のタップ穴(○)以外は、断りなく位置を変更する場合があります。



吸着テーブルに関するご注意

治具(吸着テーブル)を使用するとき、サイズは幅 UJF-3042HG: 420mm / UJF-6042: 720mm、 奥行き 505mm 以下にしてください。

上記のサイズ以上にすると、テーブルが可動できなくなります。

• UJF-3042HG



• UJF-6042



1-10



USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本機を USB2.0 インターフェイスケーブルで接続します。



- USB2.0 インターフェイスケーブルをご用意ください。(本機の付属品として、
- USB2.0 インターフェイスケーブルを添付しておりません。)
- ご使用の RIP が USB2.0 インターフェイスに対応している必要があります。
 USB2.0 インターフェイスがコンピュータに付いていない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。



電源ケーブル接続について



- 付属品の電源ケーブルを使用してください。
- 電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理したソケットに差し込んでください。火災、感電の原因になります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物を 乗せたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の 原因になります。

インクカートリッジについて

インクカートリッジをインクステーションに差し込んでお使いください。

使用可能なインクの種類

インクの種類	色
	マゼンタ
	シアン
	イエロー
	ブラック
UV インク	ライトマゼンタ
	ライトシアン
	ホワイト
	クリア
	プライマー
洗浄カートリッジ ^{*1}	



*1. ヘッド洗浄時に使用します。

ディスプレイには、次のように色を表示します。

ディスプレイ	色	ディスプレイ	色	ディスプレイ	色
М	マゼンタ	Y	イエロー	W	ホワイト
С	シアン	К	ブラック	m	ライトマゼンタ
С	ライトシアン	Р	プライマー	CL	クリア

インクカートリッジセット時のご注意

インクカートリッジをセットするときは、次のことにご注意ください。



- インクスロット番号を確認し、正しい色のインクカートリッジを差し込んでください。
- インクカートリッジは、スロットの奥まで確実に差し込んでください。また、乱暴 に抜き差ししないでください。
 - IC チップがある面を上に向けて差し込んでください。
 - インクカートリッジの交換やインク種類の変更については、以下のページをご覧く ださい。(22) P.4-4「インクカートリッジについて」)
 - インクが残っているにもかかわらずニアエンド板が出ている場合、カートリッジを 振ってニアエンド板を戻ったことを確認してからセットしてください。

インクカートリッジ取り扱い上のご注意

- •弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。
 - インクには直接触れないようにしてください。誤ってインクを付けてしまった場合は、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
 - インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
 - インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
 - インクカートリッジは開封してから6カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。
 - インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
 - 未使用のインクカートリッジは、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を 委託してください。
 - 一部成分において(光重合開始剤)、水生生物に対する毒性があります。自然水系、 生活排水への漏洩流出を防いでください。
 - インクカートリッジに記載している有効期限を過ぎた場合は、そのインクカート リッジを使用しないでください。
 - インクカートリッジをご使用の前に、必ず安全データシート(SDS)をお読みく ださい。
 - インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりする
 と、カートリッジからインクがもれることがあります。
 - インクカートリッジは分解しないでください。
 - インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。 また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社は いっさい責任を負いかねます。



メディアについて

使用可能なメディアサイズと、その取り扱い方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

最ご	大幅	UJF-3042HG: 300 mm UJF-6042: 610mm
最ご	大長	420 mm
最大	作図幅	UJF-3042HG: 300 mm UJF-6042: 610mm
最大	作図長	420 mm
厚	さ	100mm 以上 150mm 以下
重	量 ^{*1}	UJF-3042HG: 5 kg 以下 UJF-6042: 7 kg 以下

*1.1m² あたり 50kg が目安です。

	吸着テーブル + テーブルスペー	吸着テーブル + テーブルスペー
	サ 50 使用時	サ 100 使用時
最大幅	UJF-3042H	IG: 300 mm
	UJF-6042	2: 610mm
最大長	420	mm
最大作図幅	UJF-3042HG: 300 mm	
	UJF-6042	2: 610mm
最大作図長	420	mm
厚さ	50mm 以上 100mm 以下	50mm 以下
重量	UJF-3042H	G: 2 kg 以下
	UJF-6042	: 4 kg 以下

メディア取り扱い上の注意

装置破損や印刷物不良発生を防ぐため、次の点にご注意ください。



• メディアの伸縮

包装を開けて間もないシート状のメディアは、使用しないでください。室内の温度 や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。開封後、30分以上、使用 する場所の外気にさらす必要があります。

メディアの反り

板状メディアは、平らなもの、作図面を上にして下に反っているもの(中央が浮い ているもの)をご使用ください。反りやすいメディアは、一回り小さめの台やパ レットの上に置くなど、下反りになるように保管してください。

- その他の注意点
 - a コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては変色する場合 があります。
 - **b** 吸着しきれないカールしたメディアや、Yバー移動時にずれてしまうメディア は使用できません。テープ貼付などでメディアを固定してからご使用ください。
 - c 反りや変形が生じるメディアは使用しないでください。

メニューモードについて

本機には3つのモードがあります。各メニューモードについて説明します。

ローカルモード

ローカルモードは、作図準備状態のモードです。 全てのキーが有効です。 コンピュータから、データを受信できます。ただし、作図は行いません。 ローカルモードでは以下の操作が可能です。

(1)ジョグキーを押して、作図原点やテーブル高さを設定します。
 (2) TEST キーを押して、「テスト作図」を行います。
 (3) CLEANING キーを押して「ヘッドクリーニング」を行います。
 (4) FUNCTION キーを押して、各種機能を設定します。(→ファンクションモード)

ファンクションモード

ローカルモード時に、(FUNCTION)キーを押すとファンクションモードになります。 作図方法に関する機能設定を行います。

リモートモード

受信したデータを作図します。 作図中に(REMOTE)キーを押すと、一時停止します。 ローカルモード時は、(REMOTE)キーを押すとリモートモードになります。

1-16

第2章 基本的な使い方



この章では…

インクやメデイアの準備から作図までの手順や設定方法について説明 します。

作業の流れ	2-2
電源を入れる	2-3
メディアをセットする	2-4
別の方法でメディアをセットする	2-9
テスト作図をする	2-10
ヘッドクリーニングを実行する	2-12
データを作図する	2-13
作図を開始する	2-13
作図を中止する	2-14
作図データ受信中または受信済みの確認	2-15
[! ワーク タカイ] を表示したら	2-16
作図中にカバーを開けてしまった場合	2-16
電源を切る	2-17

作業の流れ

1	電源を入れる	「電源を入れる」(🖙 P.2-3)を参照して ください。
2	メディアをセットする	「メディアをセットする」((27° P.2-4) を 参照してください。
3	テスト作図をする	「テスト作図をする」((深 P.2-10) を参照 してください。
4	ヘッドクリーニングを実行 する	「ヘッドクリーニングを実行する」 (⁽ 2 ⁻ P.2-12)を参照してください。
4	ヘッドクリーニングを実行 する データを作図する	「ヘッドクリーニングを実行する」 (愛 P.2-12)を参照してください。 「データを作図する」(愛 P.2-13)を参照 してください。
電源を入れる



• 電源を入れると、初期動作のためYバーが移動します。テーブルに手をついている と危険です。



電源ボタンを押す

操作パネルの左側にある電源ボタンを押して点灯させます。

主電源スイッチが入っていないと、電源ボタンを押しても電源は入りません。
 ボタンを押してもランプが点灯しないときは、装置背面の主電源スイッチを確認してください。





UJF-3042HG	start-up
ver.*.**	



3

接続しているコンピュータの電源をオンにする

基本的な使い方

メディアをセットする



- メディア厚みが 100mm 以下の場合、メディアの厚みが 100mm となるようにメディアの かさ上げが必要になります。
 - メディアの厚みが100mm以上の場合、テーブル上下キーにて、作図高さに合わせる必要があります。
 - メディア外周部は、熱により反り返ることがあります。補助的に粘着テープなどを使って 固定してください。



吸着テーブルの高さを変更する (UJF-3042HG)

メディアの厚みに合わせて、吸着テーブルの高さ (50mm または 100mm) を変更してください。 吸着テーブルの高さは、テーブルを支えている4本のテーブルスペーサ(50mm用または100mm 用)を交換することによって変更できます。

お買い上げ時、テーブルスペーサは「100mm 用」になっています。ここでは、テーブル高さを「50mm」に変更する方法を説明します。









テーブルスペーサを交換すると、吸着テーブルの高さが下のように変わります。



テーブルスペーサ 50 使用時



吸着テーブルの高さを変更する (UJF-6042)

メディアの厚みに合わせて、吸着テーブルの高さ (50mm または 100mm) を変更してください。 吸着テーブルの高さは、テーブルを支えている4本のテーブルスペーサを着脱することによっ て変更できます。

お買い上げ時、テーブルスペーサは「100mm 用」になっています。ここでは、テーブル高さを「50mm」に変更する方法を説明します。





 テーブルスペーサを取り付ける場合、平らな面が突き当たるまでテーブルスペーサを時計 方向に回し、取り付けてください。



別の方法でメディアをセットする

メディアをセットしやすいように、Yバーを奥へ移動させることができます。

1	ローカルモードで、(<u>FUNCTION</u>)キーを押す	<ローカル>
2	 ENTER キーを押す テーブルが下がります。 メディアの厚みが 100mm 以下の場合、メディアの厚みが 100mm となるよう、吸着テーブルを取り付ける必要があります。 	FUNCTION ワーク セット <ent></ent>
3	高さの確認をしたいときは、(FUNCTION) キー を押す ・テーブルが指定の高さまで上がり、障害物センサ が作動してYバーが手前まで移動し、テーブルの 高さを確認できます。	ワーク セット シュウリョウ : ent
4	ENTER キーを押す・テーブルが指定の高さまで上がります。	ワーク セット シュウリョウ : ent

基本的な使い方

吸着テーブル使用時の吸着ファンの切り替えについて

吸着テーブルを使用している場合、作図時にメディアを固定するためのバキューム機能が自動 的に起動します。



• バキューム機能の動作を設定することができます。詳しくは、P.3-21「ファンモードを設

定する」を参照してください。

設定モードの「ファンモード」で設定を"マニュアル"にしている場合、P.3-36「バキューム機能を設定する」の操作をして吸着テーブルの吸着ファンの ON/OFF を切り替えてください。

テスト作図をする

ださい。

テスト作図の前に

指定方向にテスト作図を行い、ノズル詰まりなどの作図不良(カスレや抜け)がないか確認します。ヘッドテーブル間が100mmあるため、添付の吸着テーブルを使用してください。

メディアをセットしているか

白インクやクリアインクを使用している場合、透明フィルムに印刷して確認してく





4

5

ノズルリカバリが設定されている場合

 レズルリカバリが設定されている場合
 レマを押して ON/OFF を設定し、
 レENTER キーを押す

テストサクス゛ ノス゛ルリカハ゛リ :ON

• 原点位置をセットしているか

- UJF-3042HG は、F/W Ver.3.30 以降で対応します。
- ON: ノズルリカバリ ON で作図します
- OFF:ノズルリカバリ OFF で作図します

テスト作図が終了する

•Y バーがテーブルから退避し、ローカルモードになります。

作図結果を確認する

- •正常な場合は、データを作図してください。(22° P.2-13)
- •異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(22PP.2-12)

正営たパターン	異常なパターン		
正市なパターノ	ドカ抜け	ノズル抜け	飛行曲がり
	たくさんの線が抜けている	線が歯抜けしたように 欠けている	線の間隔が詰まったり 二重になっている

ヘッドクリーニングを実行する

テスト作図で正常な作図結果が得られない場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。 ヘッドクリーニングには、次の4種類があります。

ノーマル	テストパターンを作図したとき、線の抜けが10数本のときに使用します。 吸引とワイピングを行います。
ハード	ノーマルで線の抜けが改善しないときに使用します。
ソフト	線の曲がりがあるときに使用します。
フラッシング ^{*1}	混色(イエローに黒が混ざるなど)が発生したときに使用します。

*1. UJF-3042HG: ファームウェア Ver.3.80 以降に対応, UJF-6042: ファームウェア Ver.1.50 以降に 対応



5	テスト作図を行い、作図結果を確認する
	 ・作図結果が正常になるまで、クリーニングとテスト作図を繰り返してください。



作図を開始する



ヘッドの温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。



エラー表示がされていても、データは送信できます。作図は表示が消えてから開始します。



メディアをセットする (22 P.2-4)

- メディアの厚みが 100mm 以下の場合、メディアの厚みが 100mm となるよう、吸着 テーブルを取り付ける必要があります。

リモート



- ローカルモードで、(REMOTE)キーを押す
- リモートモードになり、コンピュータからのデー タを受信できるようになります。

49.0mm

テーブルの高さ(吸着テーブルとテーブルスペーサを含む)を表示します。



方



5

作図開始

• 作図原点は、作図が終了しても変更されません。

作図終了後、メディアを取り外す

(1) 吸着を ON にしている場合、 VACUUM キーを押して、 吸着を OFF にする

• 吸着テーブルのバキューム機能を使用して作図した場合、作図が終了したらバキュームを OFF にしてください。(P.3-36「バキューム機能を設定する」)

(2) メディアを取り除く



作図を中止する

作図を途中で中止する場合、作図動作を止め、すでに受信したデータを本機から消去します。





作図データ受信中または受信済みの確認

作図を中断した場合や、ローカル状態で作図データを受信した場合、ディスプレイは次の表示となります。 この時(REMOTE) キーを押してリモートに移行すると、作図を再開または開始します。(UJF-3042HG: ファームウェア Ver.4.10 以降に対応、UJF-6042: ファームウェア Ver.1.80 以降に対応)



 ・ディスプレイ2行目に別の警告やエラーが表示されていても、右上にDTと表示されている場合、「ミサクズデータアリ」の状態であることを意味します。

(< ローカル>	DT
インク ニアエント゛	KW



[! ワーク タカイ]を表示したら

作図中、ディスプレイに [! ワーク タカイ] を表示して作図 が中断した場合は、次のようにして作図を再開してくださ い。

ERROR 505 !ワーク タカイ



• 作図中は、常にセンサーでメディアの高さを監視しています。ギャップチェック機 能(ᢗ&P P.3-8)の設定を "OFF" にしている場合、センサーがメディアを検出する と、自動的に作図を中断し、ディスプレイに[!ワーク タカイ]を表示します。



- 作図を再開します。
 - •作図を再開しない場合は、(DATACLEAR)キーを押して作図を中止してください。 (深 P.2-14「作図を中止する」)

作図中にカバーを開けてしまった場合

作図中にカバーを開けたり、非常停止スイッチが押される と、ディスプレイにワーニングメッセージを表示します。

スイッチヲ カイシ゛ョ シテクタ゛サイ



作図を継続する場合は(ENTER)キーを押してく ださい。 中止する場合は(END)キーを押してください。

サクス゛ サイカイ < ENT> ヲ オシテクタ゛サイ



• 作図の継続をした場合、カバーを開けたタイミングによっては画像のヌケなどが発 生することがあります。



• 作図を行っていないときにカバーを開けると右の 画面を表示します。この場合は、(ENTER)キー を押してください。

(テイシ スイッチ) < ENT > ヲ オシテクタ゛サイ

電源を切る

電源を切るときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認して ください。





ウ)」を行った後、以下のようにしてください。 (1) 電源ボタンを押す (2) シャットダウン動作が終了したことを確認する 2

2-18

第3章 便利な使い方



この章では ...

本機をより便利に使うための操作方法や、各種設定方法について説明しています。

原点を変更する	3-2
ジョグキーを使用する	3-2
ファンクションメニューを使用する	3-3
ヘッドの高さを設定する	. 3-4
テーブルスペーサの設定をする	3-4
メディアの厚みを設定する	3-5
ヘッドギャップを設定する	3-6
テーブルの高さを設定する	3-7
ギャップチェック	3-8
パス間の縞を軽減する設定をする	. 3-9
MAPS 機能とは	3-9
MAPS2 機能を設定する	3-9
その他の便利な機能	3-12
データクリア	.3-12
本機の情報を表示する	.3-12
中断した作図を再開する	.3-13
ノズル抜けが直らないとき、かわりの	D
ノズルで作図する	.3-14
着弾ズレを確認する	.3-16
各種設定	3-17
作図方式を設定する	.3-17
LED UV 装置のモードを設定する	.3-18
パス数が少ない時の UV 積算照射量を	Ŧ
増わす	3-19

優先順位の設定をする	3-20
ファンモードを設定する	3-21
ワークチェンジを設定する	3-22
インク残量を設定する	3-23
画面の言語表示を切り替える	3-24
設定リストを出力する	3-25
本機のマシン情報を表示する	3-26
その他の便利な設定	3-28
設定した内容を初期状態に戻す	3-29
時刻を設定する	3-30
ミリ/インチの設定をする	3-31
空きカートリッジの重量を	
設定する	3-32
キーブザーの設定をする	3-33
冷却ポンプの設定をする	
(UJF-3042HG のみ)	3-34
作図前フラッシングレベルを	
設定する	3-35
バキューム機能を設定する	3-36

原点を変更する

お買い上げ時に設定されている原点の位置を変更することができます。 変更方法には次の2つがあります。



ジョグキーを使用する



(重要! ・ ジョグキーで設定した原点は、電源を切ると設定値がクリアされます。 ・ テーブルの高さは、電源を切ってもクリアされません。

ファンクションメニューを使用する

原点位置を正確に設定する場合、ファンクションメニューから X,Y 原点の設定をします。この 設定で原点を設定した場合、設定した値が原点位置(0.0)となります。



便利な使い方



ヘッド高さの設定では、次の各項目を設定できます。

- 吸着テーブルとテーブルスペーサの高さ
- メディアの厚み
- ヘッド ギャップ
- テーブルの高さ
- ギャップチェック

テーブルスペーサの設定をする

メディアの厚みに応じて吸着テーブルとテーブルスペーサを使用する場合、「吸着テーブル + テーブルスペーサ」の高さを設定してください。(ファームウェア Ver.3.00 以降に対応)





メディアの厚みが100mm以下を設定する場合、メディアの厚みが100mmとなるよう、吸着テーブルとテーブルスペーサを取り付ける必要があります。

メディアの厚みを設定する

メディアの厚みを変更すると、テーブル タカサも変更されます。



- ・ メディアの厚みが 100mm 以下を設定する場合、メディアの厚みが 100mm となる
 よう、吸着テーブルとテーブルスペーサを取り付ける必要があります。
- (重要!) ・ヘッドギャップ値を基準に [ヘッドギャップ] + [メディアアツミ] + [テーブル タカサ] =151.5mm となるように「メディアアツミ」または「テーブルタカサ」を 調整してください。調整できないとき、オペレーションエラーを表示します。

ヘッドギャップを設定する

ヘッドギャップを変更すると、テーブル タカサも変更されます。





5 終了するとき、 END キーを数回押す

- ・メディアの厚みが 100mm 以下を設定する場合、メディアの厚みが 100mm となるよう、吸着テーブルとテーブルスペーサを取り付ける必要があります。
- ヘッドギャップ値を基準に[ヘッドギャップ]+[メディアアツミ]+[テーブル タカサ]=151.5mm となるように「メディアアツミ」または「テーブルタカサ」を 調整してください。調整できないとき、オペレーションエラーを表示します。

3 便利な使い方

ギャップチェック

作図中に障害物を検出したときの動作を指定します。



(重要!)

ギャップチェック機能は、障害物を検出してヘッドヒットを完全に防ぐ機能ではありません。
 ギャップチェックが "ON" の場合でも、目視でワーク高さを確認してから作図を行ってください。

パス間の縞を軽減する設定をする

MAPS 機能とは

MAPS(Mimaki Advanced PassSystem) 機能とは、メディア補正をしても送り縞が解消できない場合に、MAPS 機能を使いパスの境界を分散させることにより、送り縞が目立ちにくくさせる機能です。

UJF-3042HG/UJF-6042 では、MAPS2 機能^{*1} をお使いになることができます。(UJF-3042HG: ファームウェア Ver.4.10 以降に対応、UJF-6042: ファームウェア Ver.1.80 以降に対応))



- MAPS 機能を有効にすると、無効にしているときと比べ色味の変化がみられる場合 があります。あらかじめ効果の確認を行った上で使用してください。
- プリントする画像によっては MAPS 機能の効果が得られない場合があります。あらかじめ効果の確認を行った上で使用してください。

MAPS2機能を設定する



*1. 送り縞と濃度ムラの両方を軽減する効果があります。



MAPS2 : MANUAL

AUTO : プリントモードに合わせて自動的に設定を行います。
 MANUAL : 設定値を調整することができます。

● AUTO 設定で送り縞、濃度ムラが改善されなかった場合、MANUAL 設定で調整してください。



(1) <
 (1)
 (1)
 (2)
 ENTER キーを押します。
 カラーインクのパターンを確定し、手順 10 へ進みます。

カラーインクのパターンを確定し、手順11へ進みます。

10 カラーインクに対するスムージングの設定 を行う < COLOR スムーシ゛ンク゛レヘ゛ル : 50%

- •AUTO : プリントモードに合わせて、 自動的にスムージングレベルを設定しま す。
- •5~100% : 設定値を上げると、MAPS2効果が強くなり、設定値を下げると、MAPS2 効果が弱くなります。 (5%単位)
- (2) ENTER キーを押します。
- カラーインクのスムージングレベルを確定し、手順9へ戻ります。
- - カラーインクのスムージングレベルを確定し、手順12へ進みます。

11	特色に対するパターンの設定を行う	< ° +	SPOT	>
	(1) (本) マキーを押して、パターン 1 ~パター	<u> </u>	: 1	
	20 <u>ENTER</u> キーを押します。			
	特色のパターンを確定し、手順 12 へ進みます。 (3) (④) キーを押します。			
	特色のパターンを確定し、手順9へ戻ります。			



その他の便利な機能

データクリア

本機に不要な作図データがある場合、次の操作をして消去してください。



本機の情報を表示する



ローカルモードで (ENTER) キーを押すごとに、 順次情報が表示される

•表示する情報は、次の項目です。 インク残量 / エラー (エラーがある場合) / FW バージョン情報 / コマンド情報

	インク残量
	ϺϹϒϗͼͺͼͺͽ
サ゛ンリョウ	99999999

FW バージョン/コマンド情報

J J F — 3 0 4 2 H G	V1.00
MRL-III	V1.20

- インク残量の値は、数字が大きいほど残量が多いことを示します。
- インク残量に表示される数字と、印刷残量には誤差があります。表示される数字 は、目安としてお使いください。



掌

掌

ENTERのキーを押して、ローカルモード <ローカル> に戻る

 使用機種情報について、P.3-26「本機のマシン情報を表示する」でも確認すること ができます。

中断した作図を再開する

データの印刷中にカバーを開けると、作図を中断します。 この場合、次の手順で継続して作図を再開することができます。

- (重要!) ・ テスト作図を中断した場合、作図を継続することはできません。
 - 中断した作図を再開する場合、画質や精度が保証されない場合があります。
 - エラーで作図を中断した場合、再開することはできません。



作図中にカバーを開け、再びカバーを閉め ると、メッセージを表示する

インサツ チュウタ゛ンチュウ ケイソ゛ク< >チュウシ

- ● キーを押すと、 作図を中止しローカルモードに戻ります。



サクス ゛ サイカイ <ENT>ヲ オシテクタ゛サイ

ノズル抜けが直らないとき、かわりのノズルで作図する

特定ノズルのノズル抜けが直らない場合、そのノズルは使用せず他の正常なノズルをかわりに 使用 (ノズルリカバリ) して作図することができます。





ヘッド番号:H1~H4



・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・



リカバリノズル登録例



登録番号	リカバリ ノズル番号	状態
1	12	ノズルリカバリする
2	102	ノズルリカバリする
3	146	ノズルリカバリする
4	OFF	登録無し
5	OFF	登録無し

- (重要!) 1 ノズル列あたり5 個までノズルを登録できます。
 - 本機能を使用しても、作図時間は変わりません。
 - 作図モードの最低パス数では、ノズルリカバリー機能は無効です。
- 掌
- 白インクやクリアインクを使用している場合、透明フィルムに印刷して確認してく ださい。

着弾ズレを確認する

設置テーブルの揺れなどによる着弾ズレを確認することができます。

(UJF-3042HG: ファームウェア Ver.3.80 以降に対応, UJF-6042: ファームウェア Ver.1.30 以降 に対応)

1	ローカルモードで、(FUNCTION) キーを押す	(<ローカル>
2	▲●●を押して [メンテナンス]を選 び、ENTER キーを押す	FUNCTION メンテナンス <ent></ent>
3	▲●●を押して[チャクダンヒョウカ] を選び、ENTER キーを押す	メンテナンス チャクタ゛ン ヒョウカ <ent></ent>
4	着弾評価パターンをテーブル全面に印刷す る	メンテナンス サクス * チュウ < e n t >
	 ・作図が完了すると、手順3に戻ります。 	

● 着弾ズレがあると縞模様が現れます。
 テーブルの揺れが影響していないか、ヘッドギャップが大きくなっていないか確認してください。



作図方式を設定する

作図に関する設定をします。

1 ローカルモードで、(FUNCTION) キーを押す	(ローカル >
2 ● ▼ を押して [セッテイ] を選び、 ENTER キーを押す	FUNCTION ワーク セット <ent></ent>
3 ● ● を押して[サクズホウシキ]を 選び、ENTER キーを押す	セッテイ サクス * ホウシキ < ent >
4 ENTER キーを押す	セッテイ サクス * ヒンシツ < ent >
5 を押して設定する項目を選び、 ENTER キーを押す ・設定項目については、下の表を参照してください。	セッテイ サクス゛ヒンシツ :ヒョウシ゛ュン
6 を押して設定値を選び、 ENTER = ・設定値については、下の表を参照してください。	キーを押す
7 終了するとき、 (END) キーを数回押す	

- Ï
- 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定項目	設定値	概 要
サクズ	ヒョウジュン	標準的な作図品質
ヒンシツ	キレイ	高品質な作図をしたいとき(作図スピードは遅くなります)
	ハヤイ	速く作図したいとき(画質はやや劣ります)
ロジカル	ON	作図するデータ幅に合わせて、ヘッドが移動します。
シーク	OFF	作図するときは、テーブル幅いっぱいにヘッドが移動します。

便利な使い方

3

LED UV 装置のモードを設定する

LED UV 装置のモードは3 段階に設定できます。

熱に弱いメディアを使用するときや、クリーニング中のテスト作図などで LED UV を点灯させたくないときなどに設定します。

ON	LED UV が点灯します。
OFF	作図時、LED UV は点灯しません。
インサツナシ	作図は行わずに、LED UV だけ点灯させます。作図時に LED UV を点灯させなかったときなどに、後から硬化させたいときに使用します。(通常は設定しません)





• リモート作図時の LED UV 装置のモードは、RIP 側から設定できます。詳しくは、 お使いの RIP の取扱説明書を参照してください。

パス数が少ない時の UV 積算照射量を増やす

パス数が少ない(720x6008パス以下、720x90012パス以下、720x12008パス以下、1440x12008パス以下)場合、吐出したインクに当てるUV積算光量が少なくなりメディアによってはUVの硬化不足が発生する場合があります。

「UV コウカ レベル」を設定することで少ないパスの時使用ノズルを減らし、スキャン回数を 増やすことで UV の積算光量を増やします。(UJF-3042HG: ファームウェア Ver.3.80 以降に対 応, UJF-6042: ファームウェア Ver.1.50 以降に対応)





- パス数が少ない条件(720x600 8 パス以下、720x900 12 パス以下、720x1200 8 パス以下、1440x1200 8 パス以下)のみ有効となります。それ以外の作図モードでは通常と同じノズル数で作図します。
 - 使用ノズル数を減らして作図するため、作図時間が長くなります。

便利な使い方

優先順位の設定をする

次の各項目について、本機での設定(パネル)を優先するか、コンピュータでの設定(ホス ト)を優先するかを選択します。

選択する項目:作図方式/フィードホセイ/重ね塗り/ロジカルシーク/リフレッシュ



 ホスト優先の設定で、ホストからの指定が無い項目については、パネルの設定内容 が有効となります。
ファンモードを設定する

吸着テーブルを使用しているとき、吸着テーブルにセットしたメディアを固定するためのバキューム(吸着)機能を自動的に行うか、マニュアルでセットするか設定できます。 お買い上げ時は"オート"に設定されています。(ファームウェア Ver.3.00 以降に対応)



3





5

3

便利な使い方

インク残量を設定する

インク充填時にカートリッジの重量を入力していない場合は、レベルローやレベルエンド時に 重量を入力します。本機がインク残量の再計算を行い、計算した残量を IC チップに書き込み ます(600ml インクのみ対応)。



画面の言語表示を切り替える

ディスプレイに表示する言語を日本語または英語から選べます。



・ 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定リストを出力する お客様の控え、または保守問い合わせ時の FAX 用に使用してください。 A4 サイズ以上のメディアをセットする(²² P.2-4) 1 ローカルモードで、(FUNCTION) キーを押す 2 <ローカル> ▲ ● ● を押して [メンテナンス]を選 3 FUNCTION び、(ENTER)キーを押す < E N T > メンテナンス ▲ ▼ を押して[リスト]を選び、 4 メンテナンス (ENTER)キーを押す リスト < e n t > •設定リストの出力を開始します。 終了するとき、 END キーを押す 5





終了するとき、

END

表示される情報について

表示させた情報の見方を説明します。



3

その他の便利な設定

使い方に合わせて設定を変えてください。





終了するとき、ENDキーを数回押す

掌

設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定一覧表

設定項目	設定値	概 要	
カサネヌリ	1~90	インクの重ね塗りをするときの回数を設定します。 重ね塗りをすることで、よりきれいな作図ができます。	
リフレッシュ	レベル 0 ~ 3	ホコリが多い場所などで、ヘッドのインク詰まりが起こらないよ う、プリントヘッドのリフレッシュレベルを設定します。 レベル数が大きいほど、リフレッシュ回数が多くなります。	
UV スキャン ツイカ	OFF, 1 ∼ 15 🖸	作図終了後、画像の末端部分に UV を照射して硬化させるための 追加スキャン回数を指定します。	
オートクリー ニング	ON, OFF	以下の間隔で、作図開始前に自動的にヘッドのクリーニングを実 行するかを設定します。 ・ 前回のクリーニングからリフレッシュレベルに応じた作図を 行った後、次回の作図開始前	

設定した内容を初期状態に戻す



便利な使い方

時刻を設定する



- 過去の時刻設定は、現在の時刻より8時間前の時刻までしか設定できません。
 - 未来の時刻設定は、現在の時刻表示より 24 時間後の時刻までしか設定できません。

(重要!)

ミリノインチの設定をする

本機で使用する単位を設定します。



便利な使い方

3

空きカートリッジの重量を設定する

空きカートリッジの重量を入力します。インク残量の再計算のとき使用します(600ml インクのみ対応)。





(重要!) • 設定を "OFF" にしても、エラー / 警告 / 動作完了等のブザー音を消すことはできません。

冷却ポンプの設定をする (UJF-3042HG のみ)

ファームウェア Ver.3.10 以降にバージョンアップしたことで、 LED UV ユニットの冷却ポン プの動作音が大きくなった場合、 冷却ポンプの設定を変更できます。 (対象機種 : UJF-3042/3042FX) UJF-3042HG は、 変更の必要はありません。 (ファームウェア Ver.3.10 以 降に対応)

1 ローカルモードで、(FUNCTION) キーを押す	<カル>
2 ● ● を押して[マシンセッテイ]を選び、 ENTER キーを押す	FUNCTION マシン セッテイ <ent></ent>
3	マシン セッテイ レイキャク ホ°ンフ° < ent>
4 現在設定されているポンプを表示する	マシン セッテイ ホ°ンフ° : タイフ°A
5 ● で を押して、[タイプ B]を選択し、 ENTER キーを押す	マシン セッテイ ホ°ンフ° :タイフ°B
6 終了するとき、 END キーを数回押す	

作図前フラッシングレベルを設定する

透明アクリルなどの治具を使用した場合、迷光の影響によりノズル面のインクが増粘してしまい、作図結果にしぶきなどが発生するケースがあります。

このような場合、作図前のフラッシングの量を増やすことで、しぶきなどの発生を防止します。(UJF-3042HG: ファームウェア Ver.4.00 以降に対応 , UJF-6042: ファームウェア Ver.1.70 以降に対応)

1 ローカルモードで、(FUNCTION) キーを押す	(< ローカル>
2 ● ● を押して [セッテイ] を選び、 ENTER キーを押す	FUNCTION セッティ <ent></ent>
3 	セッテイ サクス マエ フラッシンク * < ENT>
4 	セッテイ モート * : レヘ * ル0
5 終了するとき、 END キーを数回押す	

・迷光が発生しやすい環境で使用する場合は、レベル2を選択して下さい。レベル2はクリーニング時と同等のフラッシング量です。
 それでも飛沫などの吐出不良が発生した場合はレベル3に変更して下さい。
 レベル2で問題なく作図でき、インク消費量が気になる場合、レベル1にして下さい。

設定一覧表

各レベル設定におけるインク使用量は以下を目安として下さい。

レベル	インク使用量 (1 色あたり)	
0	0.03cc	
1	0.06cc	
2	0.12cc	
3	0.18cc	

バキューム機能を設定する

吸着テーブルで使用する吸着ファンの ON/OFF を設定します。(UJF-3042HG のみ。UJF-6042 はこの機能は対応していません。)



第4章 お手入れ

この章では ...

インクの交換方法やクリーニングなど、本機を快適にお使いいただく ために必要な項目を説明します。

日常のお手人れ4-	2
長期間使用しない場合は4-	2
お手入れ上のご注意4-	2
外装のお手入れ4-	.3
テーブルの清掃4-	.3
インクカートリッジについて 4-	4
新しいインクカートリッジに	
交換する4-	4
インクセットを設定する4-	6
カートリッジ異常が発生したら 4-	.9
白インクカートリッジを振る4-1	0
600ml インクカートリッジについて 4-1	2
ケースの重量を登録する4-1	2
カートリッジの重量を登録する4-1	3
カートリッジの重量を登録する(レベ	
ルロー / レベルエンド後)4-1	4
作図中のインク滴の垂れを防ぐ 4-1	6
廃インクが溜まったら 4-1	8
廃インクタンクのインクを	
処分する4-1	8

ワイパボトルのインクを処分する	. 4-20
フィルタを交換する	4-22
ノズルを洗浄する	4-24
インク排出路を洗浄する	4-26
長期間使用しない場合 (ホカンセン	ジョ
ウ)	4-27
ヘッドを洗浄する	4-29
インク充填を行う	4-31
ノズル面の清掃頻度を設定する	4-33
白インク(ホワイト)の	
メンテナシス	4-34
ワイパのクリーニング	4-37
不凍液混合水を交換する	4-39
不凍液混合水を交換する	4-40

日常のお手入れ

本機の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

長期間使用しない場合は



• P.4-28 「長期間使用しない場合 (ホカンセンジョウ)」を行ってください。

セットしてあるメディアを取り除いてください。

お手入れ上のご注意

- 本機は、絶対に分解しないでください。感電および破損の原因になります。
- 本機の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損の原因になります。
- お手入れは、主電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。これらは思わぬ事故が発生する原因になります。
- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- 本機の内部に潤滑油などを注油しないでください。故障する恐れがあります。
- 紫外線硬化インク(UVインク)は、水やアルコールと混ざると凝集物が発生します。ノズル面はもちろん、ヘッド周辺へは、水またはアルコールを付着させないようご注意ください。
- 本機は紫外線硬化インク(UV インク)を使用します。
 お手入れの際には必ず付属の保護メガネと手袋を装着してください。



外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませ、堅くしぼっ てから拭き取ってください。



テーブルの清掃

テーブルは、メディアをカットしたときの糸や紙粉等で汚れやすくなります。 汚れたまま使用を続けると、メディアが正しくフィードできなくなったり、ヘッドノズル面に ごみや固まったインクをこすり付けて、吐出不良(ノズル詰まり、飛行曲がりなど)の原因と なります。汚れが目立つときは、やわらかい毛のハケや乾いた布、ペーパータオルなどで汚れ を拭き取ります。





- 電源を切り、電源ケーブルを抜いてからメンテナンスをしてください。
- テーブルの清掃は、テーブルの温度が十分下がった状態で行ってください。
- テーブル周囲の溝や、治具固定用のネジ穴などは特に汚れがたまりやすいため、入 念に清掃をしてください。
 - 本機の内部に液体が入らないようにしてください。本機の故障や感電、火災の恐れ があります。
 - インクが付着している場合は、メンテナンス用洗浄液をペーパータオルに含ませ、 拭き取ります。

インクカートリッジについて

新しいインクカートリッジに交換する

次のようなときに、インクカートリッジを交換してください。

ディスプレイ表示	概 要
	インクカートリッジ内のインク残量が少なくなっています。
〈ローカル〉 インク ニアエント * M	 ・続けて作図できますが、作図中にインクがなくなる場合があります。早めにインクカートリッジの交換をすることをお勧めします。 ・左の表示は、マゼンタインクが少なくなっていることを示しています。
<ローカル> インク エント * M	 インクカートリッジ内のインクがなくなりました ・作図できなくなります。速やかに新しいインクカート リッジと交換してください。 ・左の表示は、マゼンタインクが無くなっていることを示 しています。





インクセットを設定する

インクの種類を変更した場合、インクセットを設定します。販売店または弊社営業所にサービ スコールしてください。

異なるインクに交換する場合、すべてのヘッドを洗浄します。 同じインク間での変更の場合、3番ヘッドまたは4番ヘッド(または、3番と4番の両方のヘッド)の洗浄や充填(または洗浄と充填の両方)を行う必要があります。



(2)

(2)

を押して、洗浄する(ヘッド番号を表示) / しない ("_"を表示)を選ぶ

(重要!) • ヘッドにセットする色や、インクタイプを変更した場合は、必ずヘッド洗浄を行ってください。





• 手順 13 ~ 14 は、充填が必要な場合のみ表示されます。



MCYK^C^L^C^LWW

999999999

< ローカル >

サ゛ンリョウ

カートリッジ異常が発生したら

インクカートリッジに異常が発生したら、ディスプレイにメッセージを表示します。 作図、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。 速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。



カートリッジ異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの原因になります。ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。



2

3

(ENTER)キーを押す

ENTER)キーを押す

- •インクカートリッジに異常がなければ < ローカル > に戻ります。
- 複数のカートリッジ異常が発生している場合、再度 ENTER キーを押すと表示されます。
- すべてのカートリッジ異常の表示が終わると、< ローカル > 表示に戻ります。

< ローカル > インク エント *	MCYK ^c L ^c LWW	(ローカル > カートリッシ゛ ナシ MCYK ^C L ^C LWW
〈 ローカル 〉		(ローカル)
インク C エラー		インク ニアエント * MCYK いい WW
< ローカル > インク キケ゛ンキ゛レ	MCYK ^C L ^C LWW	(ローカル> インク カラー MCYK ^C L ^C LWW
< ローカル > インク タイフ [°]	M C Y K ^c l ^c l W W	(ローカル > インクレヘ゛ル ロー MCYK ^C L ^C LWW
< ローカル > インクカートリッシ゛	MCYK ^c L ^c LWW	くローカル> インクレヘ゛ルエント゛ MCYK ^C ^C ^C ^{WW}
< ローカル > インク キケ゛ン	MCYK ^c L ^c LWW	
< ローカル > インク キケ゛ン(2 M) M C Y K ^c ^c WW	

4

お手入れ

白インクカートリッジを振る

起動時や次の画面が表示された場合、白インクカートリッジを振ってください。 (UJF-3042HG: ファームウェア Ver.4.10 以降に対応、UJF-6042: ファームウェア Ver.1.80 以 降に対応)







白インクカートリッジを 20 回以上ゆっくりと左右に振る

•振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカート リッジ上面のA部とカートリッジ底面のB部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを 流すように左右に 20回以上振ります。



- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。





白インクカートリッジをインクステーションに戻し、 (ENTER)キーを押す

600ml インクカートリッジについて

600ml インクカートリッジを使用する場合は、ケース重量(本ページ)とカートリッジ重量 (次ページ)を登録してください。 なお、はかり(1g単位で1200gまで量れる物)は、お客様側でご用意をお願いいたします。

ケースの重量を登録する

以下の手順で、最初にケースの重量を登録してください。 600ml カートリッジの場合、登録されたケース重量から、インク残量が計算されます。



はかりなどで、空のカートリッジのケース重量を量る

•IC チップとインクパックは未装着の状態で量ってください。

ſ	9	
	2	
U		

|600ml カートリッジを作る

ングが行えます。

空のカートリッジに、IC チップとインクパックを装着します。



ローカルモードで、600ml カートリッジを装 着する

〈ローカル〉



▲●●を押して、	手順1で量った重量を
入力し、 ENTER) キー	-を押す

他に 600ml カートリッジがある場合は、入力画面が表示されますので、手順1~4を繰り返します。
 すべての 600ml カートリッジのケース重量を入力すると、ローカルモードに戻り、作図やクリーニ

 スロット M_____ ケース シ゛ュウリョウ = 3 2 5 g

ケース シ゛ュウリョウ M____

(ローカル >

< ローカル>



 END キーを押すと、重量入力をキャンセルで きますが、ローカルモードで右の画面が表示され、重量を入力するまで 600ml カートリッジを 使用できません。

- 重量入力をキャンセルした後、カートリッジを抜き差しすると、もう一度重量入力 の画面が表示されますので、重量を入力してください。
- ケースを交換した場合などは、[マシンセッテイ]からケース重量を再登録してください。(②PP.3-32)



600ml カートリッジでインク充填を行ったら、カートリッジの重量を登録してください。



ジを使用できません。 • 重量入力をキャンセルした後、カートリッジを抜き差しすると、もう一度重量入力の画面が表示されますので、重量を入力してください。

カートリッジの重量を登録する(レベルロー/レベルエンド後)

600ml カートリッジは、インク残量が 60ml 以下になるとレベルロー、25ml 以下になるとレベ ルエンドとなります。

この場合、カートリッジの重量を入力する画面が表示されますので、重量を登録してください。 レベルロー、レベルエンドのカートリッジは、重量を入力するまで使用できません。





Ÿ

再度(ENTER)キーを押す

 他の 600ml カートリッジがある場合は、入力画面 が表示されますので、手順1~4を繰り返します。

レベルロー後、カートリッジ重量を入力してイ

ンク残量が31ml以上の場合、通常通り印刷で

きます。その後インクを消費して残量が 30ml

< ローカル> インク ニアエント゛ M C _ _ _ _ _

サ゛ンリョウセッテイ

450g OK?

Μ___

:ent

- 以下になると、インクニアエンドになります。 • レベルロー後、カートリッジ重量を入力してインク残量が 30ml 以下の場合、イン クニアエンドとなります。
- ニアエンドになると、作図は可能ですが該当ヘッドのクリーニング、インク充填は できません。
- レベルロー後、カートリッジ重量を入力してインク残量が 26ml 以上の場合、イン クニアエンドとなります。
- レベルロー後、カートリッジ重量を入力してインク残量が25ml以下の場合、レベルエンドは解消されません。新しいインクカートリッジをセットしてください。



 ・ ・ キーを押すと、重量入力をキャンセルできますが、ローカルモードで右の画面が表示され、 重量を入力するまでキャンセルしたカートリッジを使用できません。

<ローカル> インク レヘ゛ルロー	Μ
< ローカル > インクレヘ゛ル エント	"М

- ・重量入力をキャンセルした後、カートリッジを抜き差しすると、もう一度重量入力の画面が表示されますので、重量を入力してください。
- 入力したインク重量の累計が 1000ml を超えた場合、「保存失敗」エラーとなり、入力できません。

作図中のインク滴の垂れを防ぐ

キャリッジ下面には、作図中のミストによるインク滴が発生することがあります。インク滴が 垂れるとメディアが汚れたり、かすれや抜けの原因となりますので、頻繁にキャリッジ下面を 清掃してください。





• ライトポインタ部に洗浄液が付かないようご注意ください。



廃インクが溜まったら

ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、 廃インクタンクとワイパボトルに溜まります。

定期的に廃インクタンクとワイパボトルをチェックして、 インクが溜まっていたら処分して ください。

また、 「! ハイインクタンク チェック」 や 「ワイパボトル チェック」 のワーニングメッ セージが表示された場合も、 廃インクタンクとワイパボトルをチェックしてください。



- 予備の廃インクタンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお 問い合わせください。
- ヘッドクリーニング中などインク排出中の場合は、排出が終了してから作業を行ってください。
- 廃インクタンクを取り扱うときは、廃インクがこぼれないようご注意ください。
 - 廃インクタンクの液量はこまめにご確認ください。廃インクを廃棄せずに本機を使用し続けると、廃インクタンクから廃インクがあふれ出るおそれがあります。

作業に必要なもの
・
手袋

●保護メガネ

廃インクタンクのインクを処分する





END》キーを押して終了する

10


7 ワイパボトルを外し、 廃インクを廃棄する

- ふたを持ってボトルを回し、ボトルを取り 出します。
 中のインクを処分してください。
- ・廃インクは、使用している地域の条例に 従って処分してください。





ワイパボトルを戻す

(1) ふたを持ってボトルを回し、ふたを閉めます。 (2) 廃インクボックスカバーを閉めます。



フィルタを交換する

本機を末永くご利用いただくために、定期的(1週間に1回程度を目安)にフィルタを交換してください。



必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。



 フィルタの交換中にネジなどを落とした場合は、販売店または弊社営業所にご連絡 ください。

作業に必要なもの	•LED UV ユニットフィルタ(SPC-0657)		 ミスト吸着フィルタ (SPC-0656)
	•手袋	●紙タオル	•保護メガネ







▲ ▼ を押して[メンテ:フィルタカク ニン]を選び、ENTER キーを押す

. ステーション メンテ メンテ :フィルタ カクニン







(ENTER)キーを押す

• 初期動作を実行します。

ステーション	メンテ	
シュウリョウ		

4

:ent

ノズルを洗浄する

ノズル詰まりを防止するため、1日の作業の終わりに、ノズル洗浄を行ってください。



• 必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。







ノズル洗浄 (PR-200 メンテナンス洗浄液使用時)

PR-200 を搭載している機種はノズル詰まりが発生することがあります。 週2回(月・金)、PR-200専用のメンテナンス洗浄液を使ってノズルを洗浄してください。



• 必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。

を唯て	•UJ 清掃棒(SPC-0386)	•手袋	• 保護メガネ
必要なもの	•F-200 / LF-200 メンテナン: ンス洗浄液(C-ML013-Z-B	ス洗浄液(SPC-0568) 2-1-KW))、PR-200 メンテナ





• ワイパノズルの洗浄には、 必ず F-200/LF-200 メンテナンス洗浄液を使い、 (重要!) PR-200 メンテナンス洗浄液を使用しないでください。



い。

スポイトで PR-200 メンテナンス洗浄液 を取り、PR-200 搭載ヘッドのキャップ にのみ、いっぱいに満たす



• ノズル詰まりの原因となるため、 PR-200 搭載ヘッドのキャップ以外に PR-(重要!) 200 メンテナンス洗浄液を使用しないでください。

9	フロントカバーを取り付けて (ENTER)キーを押す ・キャッピングを行います。	センシ゛ョウエキ ヲ ミタス シュウリョウ : ent	
10	 ▲ ▼ を押して放置時間を設定し、 ENTER キーを押す • ノズル洗浄が開始されます。 • 設定値:1 min 	ステーション メンテ ホウチ シ゛カン : 1min	
重要!	• PR-200 メンテナンス洗浄液を使用している場合、	放置時間は変更しないでくださ	



ローカルに戻り、PR-200 搭載ヘッドのヘッ ドクリーニング(ハード)を1回実施する

• P.2-12 「ヘッドクリーニングを実行する」を参照 して操作してください。





インク排出路を洗浄する

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的にインク排出路 の洗浄を行ってください。



お手入れ

長期間使用しない場合(ホカンセンジョウ)

本機を1週間以上使用しない場合は、保管洗浄機能を使ってヘッドのノズルとインクの排出路 をクリーニングしてから本機を保管してください。



• 必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。





お手入れ



装置を移動する場合や長期間 (1ヶ月以上) 使用しない場合は、以下の作業でヘッドとインク排 出路の洗浄を行ってください。

- (重要!) ・本機には4つのヘッドが搭載されています。
 - 1 つのヘッド洗浄を行うには、洗浄液カートリッジ (SPC-0516FS) が最低 4 本必要です。作業を行う前に、新品の洗浄液カートリッジをご用意ください。
 - 全てのヘッドを同時に洗浄する場合は、洗浄液の残量が1/3以上残っている洗浄液 カートリッジを8本ご用意ください。
 - ヘッド洗浄後、再び作図を行うには、インク充填を行う必要があります。(22 P.4-34)





洗浄液カートリッジをセットする

- 洗浄するヘッドに対応したカートリッジスロットに洗浄液カートリッジをセットしてください。洗浄液の吸引を開始します。
- •洗浄液の吸引が終わると、右の画面を表示します。

センシ゛ョウ センシ゛ョウ カートリッシ゛ ヲ セット



9

洗浄液カートリッジを取り外す

- セットした全ての洗浄液カートリッジを取り外します。
- •洗浄液カートリッジを取り外すと、洗浄液の排出を始めます。
- •洗浄液の排出が終わると、右の画面を表示します。

手順7~8の作業を繰り返す

 ・再度、洗浄液カートリッジのセット / 取り外しをして、インク排出路に残ったインクの洗浄を行います。

•洗浄液の排出が終わると、右の画面を表示します。

チューフ゛ クリーニンク゛ シュウリョウ : ent



インク充填を行う

ヘッド洗浄を行うとディスプレイに"ミジュウテン"が表示され、そのままでは作図ができなくなります。

ヘッド洗浄後に再度作図できるようにするために、インク充填を行ってください。

 ・インク充填は、ヘッドクリーニング(公) P.2-12)を行ったときよりもより多くの インクを消費します。インク充填を行う前に、カートリッジにインクが十分残って いるか確認してください。





インク充填が終了したらテスト作図 (22 P.2-10) を行い、作図結果を確認する

•ノズル抜けがある場合は、ヘッドクリーニング(22 P.2-12)とテスト作図を繰り返し 行ってください。



- 600ml カートリッジをセットしてインク充填を行ったときは、インク充填後にカー
- トリッジの重量入力が必要になります。 (🖙 P.4-13)

ノズル面の清掃頻度を設定する

設定した回数の作図が終了すると、自動的にヘッドのノズル面の清掃を行い、ノズル面に付着 したインク滴を取り除きます。



白インク (ホワイト)のメンテナンス

白インク(ホワイト)は他のインクに比べて沈殿しやすい性質があります。

- 本機は白インク沈殿防止のため、循環機能を搭載しています。白インクを1日2cc^{*1}以上、毎日消費している場合は、白インクのメンテナンス(ホワイトメンテナンス)を行う必要はありません。
- 本機を使用しない場合は、プリンタ内部で沈殿してしまう場合があります。白インクが沈殿 すると作図時にノズル詰まりが発生し、正常な作図ができなくなります。
- 本機を毎日使用している場合でも、カートリッジ内部のインクは沈殿します。定期的に P.4-38 手順6を参照して白インクカートリッジを振ってください。
- 作図時のノズル詰まりの防止と白インクの状態を良好に保つため、毎日使用している場合を 除いて、2週間に1回の割合で下記のホワイトメンテナンスを行ってください。
 - ・一日一回は、次ページ手順6に従ってカートリッジ内のインクをかくはんするようにしてください。
 - 一週間に一度、始業前に必ず以下のメンテナンスをしてください。
 - 弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。



お手入れ







- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。





ワイパのクリーニング

ワイパは、ヘッドのノズル面に付着したインクを拭き取ります。 本機を使用しているとインクやホコリ等でワイパが汚れてきます。 ヘッドの状態を良好に保つために、ワイパは頻繁に清掃してください。

 清掃をする場合は、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インクが目 に入る場合があります。



 ワイパを清掃してもノズル抜けやボタ落ちが解消しない場合、ワイパ交換をお 試しください。

作業に	• UJ 清掃棒(SPC-0386)	•手袋	• 保護メガネ
必要なもの	•F-200 / LF-200 メンテナンス	ス洗浄液(SPC-0568)	









LED UV ユニット冷却のため、冷却装置内の冷却水タンクに、不凍液混合水を入れます。



交換時の注意

- 水と不凍液の混合液は、水2に対して不凍液1の割合にしてください。
- 不凍液を入れず、水だけを冷却水タンクに入れた場合は、凍結などにより UV ユニットが故障する原因になります。
- 水を入れず、不凍液だけを冷却水タンクに入れた場合、正常に動作せず、エラーになることがあります。
- 冷却水タンクの水不足が頻繁に起きる場合は、販売店または弊社営業所までサービスコールしてください。
- 不凍液と混ぜた水は、使用している地域の条例に従って処分してください。



注意

不凍液の取り扱い上のご注意

• 不凍液を取り扱う場合は、必ず付属の保護メガネおよび手袋を着用してください。



- 不凍液は、弊社専用のものをご使用ください。他のものを使用すると、冷却装置が 故障する恐れがあります。(交換用不凍液: SPC-0394 [1000cc X 2 本])
- 不凍液には直接触れないようにしてください。誤って不凍液が付いてしまったときは、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。万一、不凍液が目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- 不凍液は冷暗所で保存してください。
- 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 不用となった不凍液は、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託して ください。
- 不凍液をご使用の前に、必ず安全データシート(SDS)をお読みください。
- 予備の冷却水タンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃冷却水タンク水を移すための、キャップ付きタンクをご用意ください。
- 冷却水タンクの水が不足すると、次のエラーを 表示します。この場合は、次ページの手順と同 様に、水を交換してください。

ERROR 705 ミス゛フ゛ソク

不凍液混合水を交換する

水不足のエラーが発生したら、不凍液混合水を交換してください。



4-44

第5章 困ったときは



この章では…

故障かなと思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー 番号の解消方法などを説明をしています。

故障かなと思ったら	5-3
電源が入らない	5-3
作図できない	5-3
作図結果に問題があるときは	5-4
ノズル詰まりを解消したいとき	5-4
インク漏れが発生したら	5-4
メッセージを表示するトラブル	5-5
ワーニングメッセージ	5-5
エラーメッセージ	5-7

故障かなと思ったら

故障かなと思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるもので す。接続が適正かもう一度確認してください。



作図できない

作図ができない場合は、データが適正に本機に送られていない場合があります。 また、作図機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられ ます。



作図結果に問題があるときは

作図結果に問題があるときは、症状により下記のように対処してください。対処しても改善し ない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

現象	対処方法
スジ1 かすれが発生する	 (1) ヘッドクリーニングを行ってください。② P.2-12 (2) ヘッドが通過する部分にゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。
作図中のメディア上に大きなインク 滴が落ちる	 (1) ヘッドクリーニングを実行してください。22 P.2-12 (2) メディア表面のホコリを取り除いてください。 (3) テーブル表面に付着しているホコリをクリーニングしてください。 (4) キャリッジ下面のクリーニングをしてください。 (22 P.4-16
作図中にメディアが浮き上がり、作 図が中断する	 (1) 新しいメディアをセットし直して、作図を開始して ください。 (2) バキュームの ON/OFF を確認してください。 (3) メディアをテープで固定してください。

ノズル詰まりを解消したいとき

P.2-12の操作でヘッドのクリーニングをしてもノズル詰まりが解消しない場合は、次の項目を確認してください。

● P.4-4 を参照し、インクの交換をしてください。

インク漏れが発生したら

インク漏れが発生した場合は、主電源スイッチをオフにして電源プラグを抜いてから、弊社 サービスまたは販売店にサービスコールしてください。

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。 メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

メッセージ	対処方法
(ローカル) カートリッジ ナシ	 表示している色のインクカートリッジを取り付けてください。 (27 P.4-4)
(早めに、表示している色のインクカートリッジを交換してください。(22° P.4-4)
(ローカル) インプ エンド	 表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (淀 P.4-4)
<ローカル> インクキゲ ンギ レ	 インクカートリッジの有効期限が切れています。 表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (22 P.4-4)(期限当月末まで)
<ローカル> インクキザ ン	 インクカートリッジの有効期限が切れています。 表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (227 P.4-4)(期限翌月1日~末日まで)
(ローカル) インクキザン(1M)	 インクカートリッジの有効期限が切れています。 表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (227 P.4-4)(期限翌々月1日~末日まで)
<ローカル> インクキザ ン(2M)	 インクカートリッジの有効期限が切れています。 表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (碇 P.4-4)(期限3か月後以降)
(ローカル) インク タイプ	 ・装填したインクカートリッジの種類が合っているかを確認してください。
(ーカル) インクカラー	 表示している色と、装填したインクカートリッジの色が合っているかを確認してください。
(ローカル) ヒジ ュンセイ	 ミマキ純正のインクカートリッジをお使いください。
(ローカル) インワロンコラー	 表示している色のインクカートリッジを再挿入してください。 それでも表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービス コールしてください。
(ーカル) リーフーク タカイ	• 障害物を感知しています。このワーニングが表示されなくなる まで、テーブルを下降させてください。((27) P.3-4)
	 ・冷却水タンクの水量を確認し、必要に応じて補充してください。(22) P.4-42)

メッセージ	対処方法
(コーカル) !ハイインクタンク チェック	 ステーションメンテナンスを実行し、廃インクタンクのインク を処分してください。(22) P.4-18)
<ローカル> ワイパ ボ トル チェック	 ステーションメンテナンスを実行し、ワイパボトルのインクを 処分してください。(⁽²⁾ P.4-20)
(ローカル) !ワイパ セイソウ	 ステーションメンテナンスを実行し、ワイパをクリーニングしてください。(28 P.4-40)
(ステーションメンテナンスを実行し、フィルタを交換してください。(22) P.4-22)
(ローカル) キャップ セイソウ	 ステーションメンテナンスのキャリッジアウトを実行し、 キャップの清掃を行ってください。
(ローカル) ケース ジュウリョウ	 600ml カートリッジのケースジュウリョウが設定されていません。「マシン セッテイ」の「600ml カートリッジ」でケースジュウリョウを設定してください。
(ローカル) インクレヘ゛ルロー	 「セッテイ」の「カートリッジ ジュウリョウ」メニューでカー トリッジの重さを入力してください。
(ローカル) インクレヘ゛ルエント゛	 インクが残っている場合は、「セッテイ」の「カートリッジ ジュウリョウ」メニューでカートリッジの重さを入力してくだ さい。 インクが残っていない場合は、新しいカートリッジに交換して ください。
(ローカル) !LED UV コウリョウ カクニン	 LED UV ランプの照度を確認してください。 規定値より低いときは、ランプを交換してください。
<ローカル> ホゾン シッパイ	 インク残量保存失敗 カートリッジを抜き差しして再度書き込んでください。エラーが回復しない場合は、新しいカートリッジに交換してください。
(ローカル) カートリッジ ジュウリョウ	 カートリッジの重量が未入力 カートリッジの重量を入力してください。
כוול−ם	 表示している色のインク充填を実施してください。 (☆ P.4-34) (UJF-3042HG: ファームウェア Ver.3.80 以降に対応, UJF-6042: ファームウェア Ver.1.50 以降に対応)
(ローカル) DT ミザクズ デ ータ アリ	 ・作図データを受信中または受信済みです。 リモートにし、受信済みのデータを全て作図(27 P.2-13)するか、データクリア(27 P.3-12)してください。 右上の"DT"は「ミサクズデータアリ」を意味します。 表示優先順位が低く、他の警告やエラー表示となった場合、2 行目は別のメッセージを表示します。その際は右上のDT表示でデータ受信済みか確認できます。 (UJF-3042HG:ファームウェア Ver.4.10以降に対応、UJF-6042:ファームウェア Ver.1.80以降に対応)

困ったときは

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。 それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

メッセージ	対処方法
ERROR 108 HD CONNECT[12345678]	 一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 ・ 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコー
ERROR 108 HD THERMIS[12345678]	ルしてください。
ERROR 12e Head Failed[xxxx]	
ERROR 122 CHECK : SDRAM	
ERROR 128 HDC FIFO OVER	
ERROR 128 HDC FIFO UNDER	
ERROR 129 אנגד עידע עודע	 販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 130 HD DATA SEQ	
ERROR 201 בד" אַראָר IJ-	 インターフェイスケーブルを確実に接続してください。 規格に適合したインターフェイスケーブルをお使いください。
ERROR 202 パラメータ エラー	 一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 ・ 再度表示する場合は、 販売店または弊社営業所にサービスコー
ERROR 203 メンテコマンド	ルしてください。
ERROR 304 USB INIT ERR	
ERROR 305 USB TIME OUT	
ERROR 401 モーターアラーム X	 一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにして ください。 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコー ルしてください。

メッセージ	対処方法
ERROR 403 X オーバーカレント ERROR 402 モーターアラーム Y	 ・一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにして ください。 ・再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコー ルしてください。
ERROR 420 Z ポ ジ ション エラー	 テーブル上のメディア(治具等を含む)が 5kg を超えていない か確認してください。 一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにして ください。
ERROR 421 !フィルタ カクニン	 ステーションメンテナンスを実行し、フィルタを交換してください。(
ERROR 505 !ワーク タカイ	 ・障害物を感知しています。このワーニングが表示されなくなるまで、テーブルを下降させてください。(227 P.3-4)
ERROR 509 HDC POSCNT	 ・一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 ・再度表示する場合は、販売店または弊社学業所にサービフコー
ERROR 510 Y ゲンテン ケンシュツ	りしてください。
ERROR 50 f L-SCALE BLACK	
ERROR 510 X ゲンテン ケンシュツ	
ERROR 511 Z ゲ ンテン ケンシュツ	
ERROR 51d ジ グ ゲ ンテン ケンシュツ	 一度電源をオフにして、制御 IF ケーブルを差し直してから電源をオンにしてください。 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 601 インフ ニアエント*	 早めに、表示している色のインクカートリッジを交換してください。(公子 P.4-4)
ERROR 602 インク エンド	 ・表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (22 P.4-4)
ERROR 603 カートリッジ ナシ	 ・表示している色のインクカートリッジを取り付けてください。 ((
ERROR 604 !ハイインク タンク チェック	 ステーションメンテナンスを実行し、廃インクタンクの処理をしてください。(22° P.4-18)

メッセージ	対処方法
ERROR 605 ! ワイパ セイソウ シテクダ サイ	 ステーションメンテナンスを実行し、ワイパを清掃または交換してください。(27 P.4-40) ワイパを清掃してもノズル抜けやボタ落ちが解消しない場合、ワイパ交換をお試しください。
ERROR 606 カートリッジ イジョウ	 インクカートリッジを再挿入してください。それでも表示する 場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 607 キャップ セイソウ	 ステーションメンテナンスのキャリッジアウトを実行し、 キャップの清掃を行ってください。
ERROR 60b ワイパ ボ トル チェック	 ステーションメンテナンスを実行し、ワイパボトルのインクを 処分してください。(⁽²⁾ P.4-20)
ERROR 60c インク タイプ	 ・装填したインクカートリッジの種類が合っているかを確認してください。
ERROR 60d インク ザ ンリョウ	 インク残量が不足しています。新しいインクカートリッジと交換してください。(227 P.4-4)
ERROR 60e ציד עדליב לצ	・インクを充填してください。
ERROR 60 f インク キガ ン	 インクカートリッジの有効期限が切れています。 表示している色のインクカートリッジを交換してください。 (27 P.4-4)
ERROR 610 צי בידע	 全ヘッドにインクを充填してください。
ERROR 611 ケース ジュウリョウ	 600ml カートリッジのケースジュウリョウが設定されていません。「マシン セッテイ」の「600ml カートリッジ」でケースジュウリョウを設定してください。
ERROR 612 インクレヘ・ルロー	 「セッテイ」の「カートリッジ ジュウリョウ」メニューでカー トリッジの重さを入力してください。
ERROR 613 インクレヘ゛ルエント゛	 インクが残っている場合は、「セッテイ」の「カートリッジ ジュウリョウ」メニューでカートリッジの重さを入力してくだ さい。 インクが残っていない場合は、新しいカートリッジに交換して ください。
ERROR 614 ホノン シッパ イ	 インク残量書き込み失敗 カートリッジを抜き差しして再度書き込んでください。エラーが回復しない場合は、新しいカートリッジに交換してください。

メッセージ	対処方法	
ERROR 615 カートリッジ ジュウリョウ	 カートリッジの重量が未入力 カートリッジの重量を入力してください。 	
ERROR 701 サーミスタ イジ ョウ	 一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにして ください。 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコー ルしてください。 	
ERROR 705 ミズ ブ ソク	 冷却水タンクの水量を確認し、必要に応じて補充してください。(22 P.4-42) 	
ERROR 706 UV ユニット オーバ ーヒート	 ・一度電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 ・再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコー 	
ERROR 707 !HD ヒータ ダ ンセン	ルしてください。	
ERROR 708 UV サーミスタ ダ ンセン		
ERROR 709 !LED UV אבלת ליב	•LED UV ランプの照度を確認してください。 規定値より低いときは、ランプを交換してください。	
ERROR 901 オペレーション エラー	 正しいオペレーションをしてください。 	
ERROR 902 ミザクズ データ アリ	 ・受信済みデータをすべて作図(22 P.2-13)するか、データクリア(22 P.3-12)をしてから、設定変更をしてください。 	
ERROR 90d ヘッド センタク ナシ	 ヘッドが未選択です。 クリーニングまたは充填するヘッドを選択してください。 	

5-10





この章では ...

本機の仕様一覧表や、機能の一覧表を記載しています。

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
お問い合わせシート	6-4
機能フローチャート	6-5

本体仕様

項目		仕様		
		UJF-3042HG	UJF-6042	
作図ヘッド	方式	オンデマンドピエゾヘッド		
部	仕様	4 ヘッド(8 ノズル列)		
		x-dpi: 600, 900, 1200	x-dpi: 600, 900, 1200, 1800	
作凶分解能		y-dpi: 540, 720, 1080, 1440	y-dpi: 540, 720, 1080, 1440, 1800	
	x-dpi: 600	4, 8, 12, 16, 24, 32 pass		
	x-dpi: 900	6, 12, 18, 24 pass		
	x-dpi: 1200	8, 16, 24, 32 pass		
	x-dpi: 1800	12, 24 pass		
使用可能インク		専用 UV 硬化インク(弊社純正インク)		
		Bk、C、M、Y、Lm、Lc、W、P、CL (CLはLH-100のみ)		
インク供給		 インクカートリッジからのチューブ供給		
		インク残量表示機能あり		
		インクエンド検出機能あり(220 cc カートリッジのみ)		
インク容量		220 cc または 600 cc (各色1本))	
体田司兆	サイズ	300 x 420 mm	610 x 420 mm	
ビロロ能	厚さ	100mm 以上 150mm 以下		
×547	重量	5kg 以下	7kg 以下	
最大作図範囲		幅 300 x 長さ 420 mm	幅 610 x 長さ 420 mm	
記離特定	絶対精度	±0.3 mm または指定距離の ±0.3 % の大きい方		
吧触相反	再現性	±0.2 mm または指定距離の ±0.1 % の大きい方		
直角度		± 0.3 mm/400mm		
プリントギャップ調整		キー操作によるテーブル上下機構搭載		
ヘッド衝突防止装置		障害物センサによるヘッド衝突防止		
UV 装置		水冷 LED UV 照射器具1台(ヘッドスライダに搭載)		
廃インクタンク		専用廃インク容器(1600cc/廃インクフルセンサ無し)		
インターフェイス		USB2.0 準拠		
コマンド		MRL-III(バリアブルドット対応)		
		< ミマキオリジナルコマンド、YMCK ビットマップ形式>		
	/去#幽叶	55 dB 以下		
豚卒	פיאוסו	(FAST-A, 前後左右 1 m)		
海田 日	動作連続音	65 dB 以下		
	動作不連続音	75 dB 以下		
安全規格		VCCI- クラス A、CE マーク、CB レポート、UL60951		
インク安全性		SDS		
電源仕様		単相 AC100 ~ 240 V± 10 %		
		50 / 60 Hz ± 1 Hz		
消費電力		450 VA 以下		
設置環境	使用可能温度	20 ∼ 35 °C		
	相対湿度	35~65%Rh(結露なきこと)		
	精度保証温度	20 ~ 25 °C		
	温度勾配	±10℃/h以下		
		オフィス相当		
重量		約 130 kg	約 150 kg	
外形寸法		1200 (W) x 1090 (D) x 920 (H)	1510 (W) x 1090(D) x 960 (H)	
		mm	mm	
インク仕様

埩	Į 🗄	品番・仕様
形態		専用 UV インクカートリッジ
インク種類		ブラック、マゼンタ、シアン、イエロー、ライトシアン、ラ イトマゼンタ、プライマー ホワイト、クリアコート (クリアコートは LH-100 のみ)
インク容量		220cc または 600cc
有効期間		製造日より1年間
保存温度	保存時	15 ℃~ 35 ℃
	輸送時	0℃~60℃ 2週間以内

詳細は、販売店または弊社営業所にお問い合わせください。



• インクは、-4 ℃以下の環境で長時間放置すると凍結します。万一、凍結した場合は、室温(25℃)で3時間以上かけて解凍してから使用してください。

 インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。故障の原因 になります。

お問い合わせシート

プリンターの故障、異常動作については、このシートをお使いください。 下記の必要事項をご記入の上、巻末の弊社営業所まで FAX でお送りください。

御社名	
ご担当者名	
お電話番号	
プリンター機種名	
お使いの OS	
マシン情報	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	





	R‡–		
〈ローカル〉	DATA CLEAR 7 -9 71J7	<pre></pre>	
ガイダンス表示方法		カートリッジにエラーがある ここでエラー内容を表示しま	る場合は ます。
〈ローカル〉	ENTER くローカル> ザ・ンリョウ	MCYK ^C L ^C LWW 999999999 ENTER UJF - 3042HG V1 MRL - I I I V1	. 00 . 20

< ローカル >





付録

6-7

完了

0

-9999 ~ 9999





付録





6-11















機能フローチャート









6-19



付録













数字
600ml インクカートリッジ4-12 600ml カートリッジ3-32
L
_ED UV 装置のモードを設定する3-18
М
MAPS 機能3-9 MAPS2 機能を設定する (4 色時) 3-9
U
JSB2.0
あ
新しいインクカートリッジに交換する4-4 安全にお使いいただくためにviii
61
インクカートリッジ 1-12 インクカートリッジ取り扱い上の ご注意 1-13 インク残量 3-23 インク充填 4-34 インク仕様 6-3 インクセット 4-6
1 ンク周の垂れ4-16 インク排出路を洗浄する4-29

え

エアー抜き	
エラーメッセージ	5-6

インクを処分する4-18

お

-28
4-2
4-2
6-4

か

カートリッジ異常	4-9
カートリッジの重量	4-13
外装のお手入れ	4-3
各部の名称とはたらきについて	1-4
キャリッジ	1-6
ジョグキーのはたらき	1-5
操作パネル	1-5
装置前面	1-4
装置背面	1-4
カサネヌリ	3-28

き

機能フローチャート	6-5
ギャップチェック	3-8
吸着テーブル	1-7
吸着テーブルに関するご注意	1-10
吸着テーブルの高さを変更する	2-5

F	
	4-12
警告ラベル	xiv
言語表示	3-24
原点を変更する3-2,	3-9

こ
 5-2 vi

さ

作業の流れ	2-2
作図	2-13
サクズヒンシツ	3-17
作図方式	3-17

作図を開始する	2-13
作図を中止する	2-14

し

受信障害	vi
使用可能メディアサイズ	1-14
情報を表示する	3-12
初期状態に戻す	
白インクの定期メンテナンス	

せ

設置する		 	1-2
設置場所は	こついて	 	1-2
設定リス	┝	 	

	そ
その他の便利な設定	

	た
タップ位置	

ち

長期間使用しない場合2-17, 4-2, 4-30

ζ	
	2, 3-14
テーブルの清掃	4-3
テーブルの高さ	3-7
テーブルの高さを変更する	3-4
テスト作図	2-10
電源ケーブル	1-11
電源を入れる	
電源を切る	2-17
電波障害自主規制	vi

	の
ノズルリカバリ	

	ノズルを洗浄する		4-26
--	----------	--	------

は

廃インクタンク	4-18
バキューム機能	

ひ

非常停止スイッチ1-6

151

ファンクションモード	1-15
ファンモードを設定する	3-21
フィルタ	4-22
フィルタを交換する	4-22
不凍液	4-42

$\overline{}$

ヘッドギャップ	3-6
ヘッドクリーニング	2-12
ヘッドを洗浄する	4-32

&	
- ホカンセンジョウ 本機の移動 本書の読み方 本体仕様	4-30 1-3 xvii 6-2

ま マシン情報3-26

Ø

メディア取り扱い上の注意	1-14
メディアの厚み3-4,	3-5
メディアをセットする	2-4
メニューモード	1-15

索 引

Ŵ	
憂先順位	3-20
Ŋ	
ノモートモード	1-15
n	
令却ポンプの設定をする	3-34
3	
ローカルモード	1-15
ロジカルシーク	3-17
わ	
ーーーーーー ワークチェンジ	
ワーニングメッセージ	5-4
ワイパのクリーニング	
ションハトル	

UJF-3042HG/UJF-6042 取扱説明書

2020年9月

発行者	株式会社ミマキエンジニアリング
発行所	株式会社ミマキエンジニアリング
	〒 389-0512
	長野県東御市滋野乙 2182-3

D202465-18-30092020

